SDGs講演会開催レポート

ステークホルダーをファンにする
～サステナビリティ経営のポイント～

開催日　2023年11月28(火)

主　催　姫路商工会議所 SDGs推進委員会
（瀧川祥也委員長 トヨタカローラ姫路株式会社 代表取締役社長）

講 師　EMIELD株式会社　森 優希 氏

サステナビリティ経営とは、企業が社会課題の解決に貢献しながら、持続的な経営を実現していく経営手法です。
中小企業が取り組むことで、取引先や顧客など、ステークホルダーの信頼向上や長期的な成長が期待されます。
一方で、SDGs を経営にどう取り入れればよいか分からないと感じている方も多いのではないでしょうか。
本講演では、サステナビリティ経営の基礎知識や中小企業が経営にSDGsを取り入れるためのポイントについて、SDGsコンサルティングやセミナーを手掛けられているEMIELD株式会社の森講師に分かりやすく解説いただきました。

なぜ企業はSDGsに向き合うのか

企業がSDGsに向き合うべき理由は３つ。

▶ 社会・環境の背景

企業を取り巻く環境は変化し続けるため、事業を進める上で将来的にどのような社会課題が影響をもたらしうるのか、注視する必要がある。

▶ 事業機会の創造・企業価値の向上

社会課題や「困りごと」を反映したSDGsを切り口にすることで、既存事業を伸ばし、さらには新規事業を創るための手がかりを得ることができる。

▶ ステークホルダーとの関係性強化

取引先や金融機関、就職活動中の学生といった、企業を取り巻く様々なステークホルダーにとってSDGsは共通言語となっている。SDGsが義務教育に組み込まれ、SDGsに関する取り組み状況が企業との取引条件となりつつあることから、ステークホルダーに選ばれる企業であり続けるには、SDGsを経営に取り入れることが求められる。

SDGs経営で選ばれ続けるためには

ステークホルダーに選ばれるためには、以下のような姿勢でSDGs経営に取り組むことが望ましい。

▶ 企業の社会的な存在意義を明確にする

自社が何のために社会に存在するのかを明確にすることで、ステークホルダーから選ばれ続ける企業の軸となる。

▶ 事業を通じた社会課題解決のしくみを創る

① 企業・事業の未来を見据えた際に、どのような社会課題に取り組むことで、新たな機会に繋がり、取り組まないことでリスクとなりうるのかを把握する。
② 持続可能な形でSDGs経営に参画するためにも、事業を通じてどのような課題解決に繋げていくのかという設計が重要となる。困りごとの数だけ、事業は生まれる。

▶ 透明性を維持し、適切な情報を開示し、評価する

取り組みに対しては、進捗や現状の評価を開示する。どれだけ良い取り組みをしていても、発信ができていなければ伝わらない。顧客を増やす、採用に活かすなど目的とそのターゲットにあわせた発信を行うことが重要。共感を生むマーケティングに繋げていく。

▶ わが事として語れるようになるまで、社内に浸透させる

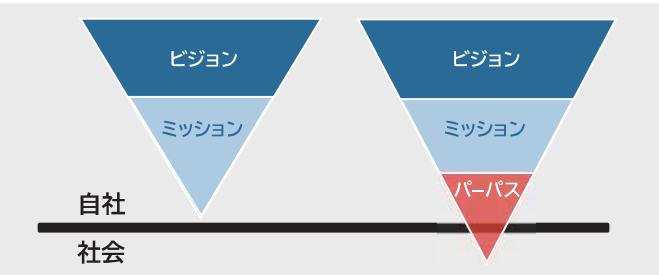
社員が「わが事」として語ることができなければ、取引先を含むステークホルダーにも浸透していかない。

▶ パートナーシップで取り組みを推進する

業種業界、バリューチェーン全体、また、NPO・大学など様々な連携をすることで、これまでにないイノベーションを創造することができる。

パーパスとSDGs

企業の社会的な存在意義を明確にし、社内に浸透させ社外からの共感を獲得し、事業を通じて社会課題解決へ繋げるために「パーパス“purpose”」に向き合う必要がある。創業から大切にしている価値観として、企業ではミッション、ビジョンが掲げられるが、パーパスはそこからさらに「自社は何のために存在するのか」「社会に対してどう在りたいのか」を表明したもの。



自社のパーパスを策定することで、取引先や金融機関、社員や学生などステークホルダーから選ばれ続ける企業の軸となる。